

女性医師支援

「女性医師支援」という言葉

女性医師支援の活動に私が参加したとき、「男性医師支援」という言葉がないのならば、「女性医師支援」という言葉はおかしい」と知人からいわれた。確かに世の中では、「看護婦」が「看護師」「スチュワーデス」が「フライトアテンダント」、「ファイアーマン」が「ファイアーファイター」と性別を含まない語を使う傾向にある。しかし、まずは目的を明確にし、対象を絞って「女性医師支援」から入り、順調に活動できたら到達目標を「男女共同参画」などに変更すべきであると思つた。

25年前の予測では…

1985年は日本の近代医師制度のもと初の女性医師が生まれてから101年目にあたり、雑誌「医学教育」に特集が組まれた。このとき、女子医学生は全体の6分の1、女性医師は10分1のであったが、21世紀には女性医師が30%になると予測され、現実にもそうなつた。2009年の英国王立内科学会の報告書では英

国では医学部新入生の57%が女性で、このままでは2017年には大部分の医師が女性になることが予想された。そのため女性医師の希望する勤務形態を解析し、有効な対策を講じることが急務であり、女性の医学部教授が極端に少ないことが解決すべき問題の一つとされた。

医学会分科会を対象にしたアンケート調査に携り…

日本外科学会は2008年に医学分科会105学会を対象にアンケート調査を行った。私はこの調査に加わり、女性医師を数えていない、入力していない学会が多いことに気がついたので、日本医学会長 高久文彦先生に、分科会の学会は女性医師数を把握していただけないかとお手紙を差し上げた。しばらくして、「女性医師を数えることは差別化にとられることもある」というお返事

第4回日本胸部外科女性医師の会 (2009年10月横浜にて)



前列は、第62回日本胸部外科学会 四津良平会長と富澤康子先生

をいただいた。私は何が差別だか理解出来なかつたが、女性医師数が把握されていないと妊娠・出産・育児・介護に関し、医療界において今後有効な対策がたてられないことを危惧した。近代医師制度のもと若狭野吟子先生は最初の女性医師

である。それまで「女性は妊娠・出産・子育てがあるから主治医になれない」という理由で「開業試験」の受験を拒まれていた。

「90日間の休み」

2009年5月、女性医師支援センターはシンポジ

ウム「女性医師のさらなる活躍のために」を開催した。この時、研修医が妊娠したときに関して会場の指導医から質問がでた。新臨床研修制度では病気や事故を考へ「90日間の休み」の規定はあつたが、妊娠・出産が起きないことになつてい

た。厚生省医政局はすみやかに対応し、「医師が妊娠・出産・育児を理由に臨床研修の終了を断念することがないように十分に配慮」と通知を出した。開業試験受験許可後の、一歩になつたと思つた。

女性の理事が一人もでていない学会が…

明治時代に創設されたから100年以上たつのに女性の理事が一人もでていない学会が内科系・外科系に複数ある上記の分科会調査時、新入医師会員の女性が産婦人科60%、麻酔科48%であるにもかかわらず女性役員はいなかつた。専門医・指導医の資格更新の留保条件に業種になる留保は含まれても、妊娠・出産・育児・介護などが含まれることは少なく、男性に比べて女性の専門医・指導医の割合は少ない。女性医師が院内保育所、延長保

育、病児保育、オンコル時の託児所、等の設置により働く環境の整備を希望しても、女性の役員が学会の最高議決機関において学会の施設認定条件にこれらを加えない限り改善は望めないと思う。私は医学分科会ではまず、女性会員数に比例した女性評議員数、女性理事1人以上、女性編集委員1人以上を遵守することが女性医師支援に必要なと考える。

「強いて働ける環境」をとこのえるため

外科医師をとりまく就業環境は厳しい。労働基準法が守られず、代替え医師制度がなく、当直明けに通常勤務をしられ、過労死の基準を満たしている。労働環境の改善はPA制度の導入だけでは改善されない。女性外科医師が輝いて働ける環境をとこのえるためには、女性医師支援から始

富澤康子
(東京女子医科大学心臓血管外科)
1980年 東京女子医科大学卒業
趣味: 庭の草むしり

好きな言葉:
一生は一度しかなく、今の一瞬を生きる。
今が楽しくなければ、人生を楽しめない。